

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第4回大潟区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

・協議事項（公開）

（1）令和3年度地域活動支援事業（大潟区）【追加募集分】提案事業のプレゼンテーション・審査について

（2）令和3年度地域活動支援事業（大潟区）【追加募集分】提案事業の採択・補助額について

・その他（公開）

3 開催日時

令和3年8月19日（木）午後6時00分から午後9時07分まで

4 開催場所

大潟コミュニティプラザ 2階 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：五十嵐郁代、五十嵐公子、金澤信夫、君波豊（会長）、佐藤忠治（副会長）
新保輝松、関清、土屋郁夫、中野幹根、濁川清夏、俵木一松、俵木晴之、
細井雅明、山岸敏幸（14名中14名出席）

・事務局：大潟区総合事務所 熊木所長、柳澤次長（総務・地域振興グループ長兼務）、
平野市民生活・福祉グループ長、渡邊教育・文化グループ長、岩片班長、
水澤主任（以下グループ長はG長と表記）

8 発言の内容（要旨）

【柳澤次長】

・会議の開会を宣言

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【君波豊会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：金澤信夫委員に依頼

【君波豊会長】

それでは、3協議事項（1）「令和3年度地域活動支援事業（大潟区）【追加募集分】提案事業のプレゼンテーション・審査について」に入る。プレゼン方法等について事務局から説明してもらう。

【岩片班長】

資料No.1、資料No.2により説明。

【君波豊会長】

プレゼンテーションを始める。提案事業No.1「大潟の子どもを育てる会」から提案された『大潟の食と郷土料理』レシピ集作成事業についてプレゼンテーションをお願いする。

【大潟の子どもを育てる会】

プレゼンテーションを実施。

【君波豊会長】

質疑を求める。

【山岸敏幸委員】

冊子の完成が4月にずれ込む可能性があるような発言があったが、それでは通らないのではないか。

【大潟の子どもを育てる会】

今、手元にある写真も使いながら取り組んでいくつもりだが、春ぎりぎりにならないと入らない材料もある。その場合、完成がずれ込む可能性がある。

【岩片班長】

年度内に事業が完了しなければならない。

【大潟の子どもを育てる会】

了解した。今年度中に完了させる。

【関清委員】

前回の冊子で干し芋が紹介されていた。私の記憶にはないのだが、何年ころまで作られていたのか。

【大潟の子どもを育てる会】

干し芋については、雁子浜の高齢女性から話を聞いた。

【関清委員】

その年代、時代はいつごろなのか。一般的なのか疑問に思った。また、前回の冊子では、教育上、もう少し説明が必要な個所がかなりあると思う。例えば、養蚕についてはざっと触れているだけである。押し寿司も私の記憶にない。正月や祭りの時に食べられていたとなっているが、一般的に食べられていたのか。また、のっぺについてだが、郷土料理として全県的に成立しているのは非常に珍しい。お祝いや葬式等で材料の切り方も違う。そういう背景などにもう少し触れると深みが出るのに残念だと思っていた。

【大潟の子どもを育てる会】

前回の冊子は、小学5年生を対象にしていたため、あまり深い内容にはしなかった。冊子を読んで、例えば農業や漁業について学ぼうとなった時に、そこから小学校の授業の中で、先生が子供たちと深く調べ、大潟区を回り、見たり聞いたりしながら学ぶものであった。そのため、あえて深い内容では記載をしなかった。文章についてもなるべく簡潔に載せさせていただいた。のっぺに関しては、大潟区では里芋が採れない地域であったため、かわりにじゃが芋を使い、葛を搔いてということ載せたい。また、かんぴょうは仏事には切るだけ、お祝い事には結んでということレシピ集の中で載せたいと考えている。押し寿司や干し芋などについて、すべての家庭で食べられていたかは不明である。何人かに話を聞いて、「食べていた。」といわれる料理を掲載した。本当にこれが大潟の郷土料理かと言われたら、胸を張れない部分があるのは事実である。しかし、昔の人が、こんな形で食べていたというものを載せている。これから作るレシピ集も、必ずその味ということではない。郷土料理というのは、家々によって作り方も違うし、食材も違うと思う。しかし、大潟区にはこんな食材、料理があるということ子どもたちの中に残してあげたいという思いで事業に取り組みたい。

【関清委員】

郷土料理が、どこの家庭でも季節や行事に合わせて食べられるようになったのは昭和

初期であると言われている。話を聞いた方が、どういう年代であるかが記載されると歴史背景等を郷土料理の中に落とし込むことができる。前回の冊子では、「郷土料理はこれだ。」ということになってしまう。

【大潟の子どもを育てる会】

これから作るレシピ集は、5年生向けではなく、家庭で作ってもらうために前回の冊子を発展させた大人向けのものである。家で作ってみたいので、分量、作り方をきちんと載せてほしいという声があった。レシピを作るにあたり、大潟の子どもを育てる会で分量等を算出して作成する。それが本当に正しい郷土料理かと言われると、そうではないかもしれない。なるべく多くの大潟区の方に参加してもらいながらレシピ集を作成したい。

【君波豊会長】

例えば、食生活改善推進員の意見を聞くなど、広く意見を聞いていいものを作成して頂きたい。以上で『大潟の食と郷土料理』レシピ集作成事業』のプレゼンテーションを終了する。

次に、提案事業 No. 2 「上越市防災士会大潟支部」から提案された「災害等避難時支援「安否確認タオル」活用事業」のプレゼンテーションをお願いする。

【上越市防災士会大潟支部】

プレゼンテーションを実施。

【君波豊会長】

質疑を求める。

【濁川清夏委員】

他に丈夫な素材等があると思うが、タオルにこだわる理由はなにか。また、タオルには掲出しやすいような紐、穴がついているのか。

【上越市防災士会大潟支部】

もともと、各種災害に対応するための物であり、タオルにこだわる必要はないと考える。天候や災害状況に合わせるものでもなく、目印としての一時的なものと思っていた。ナイロン製の物もあると思うが、単価が上がってしまう。また、短時間でどこでも掲げられるものとしてタオルを選択した。今考えているものには、紐、穴等はない。

【濁川清夏委員】

どこかに掛けるのか。どのように使用するのか。

【上越市防災士会大潟支部】

例えば、そのままポストに掛けたり、ドアノブを利用したりである。

【濁川清夏委員】

ドアノブに掛けるのに、紐等が無ければ具合が悪い。どうやってつけるのか。実際の商品があれば確認もできるが、今の説明だけでは、配布されたがどうやって掲げればいいのかわからないとなるので質問している。

【君波豊会長】

紐等をつけることとして発注したらどうか。

【濁川清夏委員】

実際に商品を見ているのか。

【上越市防災士会大潟支部】

資料は見ているか。提案書の中に商品の資料が添付されているのでご覧いただきたい。

【濁川清夏委員】

資料を見ると、紐等はない。ポストに入れて掲げることもできるが、ポスト等がない家もある。もう少し、使い勝手のいいものはないかと思い質問させていただいた。

【俵木晴之委員】

全国的には、紐や穴があるものを使用しているのか。あるいは見本のままの状態で使用しているのか。以前テレビで紹介されていた時は、タオル1枚を挟んだり、縛ったりしていた。要は、目に付けばいいのだと思う。取り入れている地域でも紐等が無い状態で使用しているのか。

【上越市防災士会大潟支部】

そうである。災害時であるので、縛るのでも何でもいいが、色を分かりやすいように統一して「この家は大丈夫だ。」ということがすぐ分かるようにすることが大事である。

【山岸敏幸委員】

上越市防災士会全体で、この事業に関して協議したことがあるのか。例えば、将来、

上越市防災士会でタオルでなく、違うものを利用して安否確認をするとなった場合には、再度作成しなければいけなくなる。今、購入しようとしているタオルを他の支部にも浸透させる意気込みなのか。

【上越市防災士会大潟支部】

上越市防災士会の中で協議はしていない。全国的にみると、自治区や町内会単位で導入されている。上越市防災士会も平成18年、19年に発足して以来、いろいろ協議等はしているが、各支部に予算がない状況である。防災担当が町内の皆様と協議しながら、できることを自主防災組織の中で少しずつ進めている状況であり、そこまでの話はしていない。

【君波豊会長】

ドアノブに付けるのであれば、紐やリング状のものがついていると固定しやすい。災害時に風があり、飛んでしまっただけでは意味がなくなってしまう。そういった部分を工夫して発注されるとさらにいいものになると思うので、今出た意見等を参考にさせていただきたい。また、上越市防災士会に声を掛けていただき、上越市で統一を図っていただけるとなるといい結果となるのではないかと。以上で「災害等避難時支援「安否確認タオル」活用事業」のプレゼンテーションを終了する。

次に、提案事業 No.2「大潟町小学校後援会」から提案された「作物の栽培を通して、子供と地域をつなぐ交流事業」のプレゼンテーションをお願いする。

【大潟町小学校後援会】

プレゼンテーションを実施。

【君波豊会長】

質疑を求める。

【金澤信夫委員】

背負式の草刈機を購入予定であるが、背負式草刈機は年々使用する人が少なくなっている人気のない機種である。また、購入予定のものはその中でも大きめの機種である。用務員等が、その機種が使いやすいということで選定されたのか。

【大潟町小学校後援会】

耕運機、草刈機は用務員とも相談して決めた。耕地が広いため、背負式のほうが刃が大きく、作業効率が良いということで選定した。

【山岸敏幸委員】

用務員の意見も聞いたということだが、用務員も異動があるため、誰でもが使いやすいものがよいのではないか。次に勤務する用務員が「この機種は使えない。」と言ったらどうするのか。

【大潟町小学校後援会】

詳しいことまではわからないが、用務員には講習がある。講習を受けていただくことで対応可能と考える。

【関清委員】

上越市は、比較的総合学習が盛んである。教育委員会に耕運機や草刈機の更新、購入を相談したが断られたとのことであるが、他でもこのようなことが生じていると思う。学校間で情報収集や情報共有をしたことがあるか。

【大潟町小学校後援会】

教育委員会に更新の相談をしたが、古いものであり備品の記録がないものであった。市の備品ではないし、予算措置もしていないため更新はできない。大潟区であれば中学校から借りたりできないかという回答であった。大潟町小学校では、関わり合いをキーワードに全学年が畑、花壇、また、中庭に作られた田んぼで活動をしている。耕地も広く、機材の貸し借りで対応するのは難しいため、地域活動支援事業を活用させてもらいたいと考えた。

【関清委員】

総合学習は、公の授業か。

【大潟町小学校後援会】

そうである。

【関清委員】

上越市は総合学習を勧めているのに、設備等は自分たちで賄えというのは議論として成り立たない。その辺りを学校としても考えたらどうかと思う。もう一点、安全上の問題である。農業機械による事故は多く、建設現場の事故よりも多いらしい。用務員の講習があるとのことだが、どこが主催し、いつ実施しているのか。

【大潟町小学校後援会】

詳しくは把握していない。

【関清委員】

講習は終わっているのか。

【大潟町小学校後援会】

用務員から講習を受けたことを聞いた。

【関清委員】

これは非常に大事なことである。事故が起こったらどうするかということになるので、そこはよくチェックしてほしい。それが怠っていた場合は、JA等の力を借りるなども重要である。上越のJAでは安全作業、事故防止の講習が大変進んでいる。

【俵木一松委員】

耕運機は中型の機種を選定している。私も似たような耕運機を使用しているが、重たく、使い勝手はあまり良くないと感じている。もう一つランクを落とすと、馬力も下がるが使い勝手はいいと思う。大きな面積を耕すためとのことだが、馬力等ばかりでなく使い勝手も重視した方がいいのではと感じている。

【俵木晴之委員】

他の小学校でも畑を作っていると思うが、耕運機や草刈機の調達はどうしているのか。例えば、集めた後援会費で賄っているとかの話聞いたことはあるか。

【大潟町小学校後援会】

そこまでの情報を共有していない。

【君波豊会長】

背負式草刈機は安全上の問題があるらしい。以前、県の緑の森づくり事業に参加して、草刈機を買ってもらう時に背負式を要請したところ、「これは危険であるのでやめなさい。」と言われ普通の草刈機を支給してもらったことがあった。市販されているものにも背負式はあまり見かけない。また、草刈機の講習はJA等が行っているが、最近講習を受けないと使えないようになったのではないかと思うので、よく確認いただきたい。古い耕運機を直しながら使ってきたとのことだが、後援会で耕運機を所有すると、年間を通して保守点検の費用が掛かかり、後援会費にも影響してくる。会の中で検討されて保守点検を行ってほしい。後援会が多くの備品を持つことによって、維持管理をしていくことが大変であると心配している。以上で「作物の栽培を通して、子供と地域をつなぐ交流事業」のプレゼンテーションを終了する。

次に、提案事業 No.4 「まちづくり大潟」から提案された「情報紙等作成機器の整備による市民活動支援事業」のプレゼンテーションをお願いする。

【まちづくり大潟】

プレゼンテーションを実施。

【君波豊会長】

質疑を求める。

【佐藤忠治副会長】

紙折り機は、地域協議会だよりを作成するときに活用させていただいている。私たちは、A3を二つ折りにしているが、他の団体はどのような折り方で使用しているのか。

【まちづくり大潟】

他の団体の折り方については把握していない。まちづくり大潟では、敬老会関係の文書を三つ折りにしたりしている。

【佐藤忠治副会長】

市民プラザにも紙折り機があるが、最新式のため使い方がまったくわからない。私としては、今、まちづくり大潟が所有しているタイプの方が使い勝手がいい。

【まちづくり大潟】

長年使用させていただいており、使い勝手も良いのだと思う。購入することができたら皆さんにレクチャーをして、これからも使いやすい状態にしていきたい。

【佐藤忠治副会長】

印刷機には利用簿があるが、紙折機にはない。利用簿を用意して、利用実績を記入するようにしていただきたい。

【まちづくり大潟】

先ほどの質問でも、利用状況を把握していないと回答した。今後、利用状況把握のためにも利用簿の配置を検討したい。

【君波豊会長】

他に質問はあるか。

(一同無し)

以上で「情報紙等作成機器の整備による市民活動支援事業」のプレゼンテーションを終了する。

引続き、提案事業 No. 4「まちづくり大潟」から提案された「ドローンを使ったプログラム勉強会事業」のプレゼンテーションをお願いする。

【まちづくり大潟】

プレゼンテーションを実施。

【君波豊会長】

質疑を求める。

【金澤信夫委員】

講習会は、ドローン基礎講習 2 時間、ドローン実施講習 2 時間、ドローン撮影講習 1 時間の合計 5 時間の予定である。この 5 時間の講習を受けて、プログラムを作成する勉強会を開催するということであるが、実際に 5 時間の講習を受けて、プログラムを作成するくらいの知識等が身につくのか。そこの検証はしているか。

【まちづくり大潟】

業者から示された標準的な時間割である。講習会は、小学生向けの勉強会を開催するにあたり、指導者となるまちづくり大潟の教育文化の委員が受ける講習会である。結果については精査していないが、そういったための時間割ということで業者から示してもらったので、その時間内で終了させたいと考えている。

【金澤信夫委員】

その講習会にでることによって、プログラムを組めるようになるのか。ただ、さわりだけでプログラムの作り方を覚えるだけなのかを知りたかった。

【関清委員】

ドローンの規制や危険な部分を掌握したうえでの提案でなくてはならないと思う。学校の先生がこの提案に対して「プログラミング教育も始まっているので良いのではないか。」と言われたとのことだが、それは先生の意見である。生徒のニーズがあるのか、生の声を聞きたいと思った。ドローンというと、災害時などに活用されている。そういった機材を使える人材を育てていくというのであれば、極めて現実感もあると思う。

【まちづくり大潟】

先ほど、プログラミングをするためにドローンを選定したという話をさせていただいた。確かにドローンの普及、保有については不確かなものがあるが、プログラミングの体験をしてもらう際に、何らかの目玉商品というか、ロボットでもいいのだが今回はド

ローンを選定した。まずは、体験してほしいというのが提案理由である。場所も、今回は屋内で実施する。ドローンの危険性や規制についてだが、今回購入予定の物は飛行ルールについてもクリアしているものである。運用する際には、十分に注意しながら行いたい。また、学校の先生の話も出た。事前に子どもの意向は聞いていないが、聞いておけばよかったのだと思う。今回プレゼンテーションに参加するにあたり、携わっている先生の考えをお聞きした。今後、募集をした時にどのくらいの参加希望があるかはわからないが、安全に考慮しながら進めていきたい。

【佐藤忠治副会長】

私も関心がある。ドローンというと、農薬散布等で利用されているイメージがある。勉強会では、小学生の参加を何人くらい予定しているのか。また、プログラミングにはパソコン等が必要と思うが、勉強会ではパソコンを持参させるのか、提案団体側で用意するのか。

【まちづくり大潟】

ドローンについては、パソコンでなくスマートフォンにダウンロードできる。ダウンロードしたものを利用してドローンを動かす。その際に必要なスマートフォンを小学生は持っていないと思われるし、管理もあるので、保護者同伴での参加で検討している。人数については、学習用で4セット購入する予定なので、1回に4組を予定している。

【君波豊会長】

他に質問はあるか。

(一同無し)

以上で「ドローンを使ったプログラム勉強会事業」のプレゼンテーションを終了する。

すべてのプレゼンテーションが終了した。「基本審査票」及び「共通審査票」は事務局が回収する。審査結果集計までの間、地域協議会を休会する。

～休会～

【君波豊会長】

それでは、地域協議会を再開する。

3 協議事項（2）令和3年度地域活動支援事業（大潟区）【追加募集分】提案事業の採択・補助額について、協議する。採点結果等について事務局から説明してもらう。

【水澤主任】

資料No.3-1により説明。

【君波豊会長】

質問、意見はあるか。

(一同無し)

この結果を踏まえ、5件の提案事業のすべてを「優先して採択する事業」として、補助額の検討に入る。

(一同了承)

では、補助額の検討に入る。補助額案等について、事務局から説明してもらう。

【水澤主任】

資料No.3-2により説明。

【君波豊会長】

質問、意見はあるか。

(一同無し)

5件の提案事業のうち、大潟町小学校後援会が提案した「作物の栽培を通して、こどもと地域をつなぐ交流事業」は、共通審査の平均点が12.5点に達しなかったため不採択、その他の4件は、「優先して採択する事業」であり、共通審査の平均点も12.5点以上であることから、補助額は提案団体の希望額どおりで採択としてよいか。

(一同了承)

以上で全5事業の採択、不採択及び補助額が決定した。提案者に対して付帯意見があれば「特記事項」として要望したい。特記事項案について事務局から説明してもらう。

【水澤主任】

資料No.3-3により説明。

【君波豊会長】

採択された4件の提案事業について、付帯意見があれば特記事項として提案者に要望したいと思う。意見はあるか。

【山岸敏幸委員】

特にない。

【新保輝松委員】

不採択となった事業に対して、理由を伝える必要はないのか。共通審査の点数によって不採択であったというだけでよいのか。

【佐藤忠治副会長】

審査の結果、採択される点数に満たなかったということだけでよいのではないか。

【山岸敏幸委員】

私も、点数が満たなかったという結果だけでよいと思う。

【君波豊会長】

協議会の中の全員の答えということだけでよいのではないかと思う。特に、付帯意見を付けないということだけでよいか。

(一同了承)

【佐藤忠治副会長】

『大潟の食と郷土料理』レシピ集作成事業だが、会長も言っていたが、「食生活改善推進員の意見も聞いて作成してほしい。」という意見を入れた方がいいのではないか。

【俵木晴之委員】

プレゼンテーションの質疑にあったのではないか。

【佐藤忠治副会長】

提案団体の中で中心となって動く方は料理の専門家だが、それだけでは困る。

【俵木晴之委員】

意見を聞くのはいいが、食生活改善推進員の活動からすると少し違うのではないか。

【佐藤忠治副会長】

年配の人が多い。

【五十嵐郁代委員】

「できるだけ地域の色々な方の意見を聞きながら編集をしてほしい。」程度でいいのではないか。

【君波豊会長】

今の発言のような意見を付けてもいいと思う。関委員からも、どのような年代の人から聞き取ったのかという発言もあった。

【関清委員】

聞き取りをした方の氏名を入れておくと、提案団体の一部の人の一存で作成したわけではなく実態があったことがわかる。子どもにとっても、知っている人が出てくると違ってくる。

【君波豊会長】

大潟の子どもを育てる会は、早寝早起き朝ごはん運動でもレシピを作っている。前回の料理集は食生活改善推進員にも配られているようだ。「できるだけ地域の色々な方の意見を聞きながら編集をしてほしい。」と「聞き取りをした方の氏名等を掲載して欲しい。」という2点を特記事項とするか。

【山岸敏幸委員】

附帯意見なしでいいのではないか。質問事項としてやり取りしたなかで、提案団体も承知しているはずである。

【佐藤忠治副会長】

聞き流されてしまう可能性もある。文書にして団体宛てに通知するべきである。

【五十嵐郁代委員】

今回はレシピ集で、材料、匙加減、切り方の話もあった。そうなると、郷土料理であり、一人の方だけのレシピでは困ると感じる。より多くの人と話をして作成するということはお願いしたい。残すものであるからこそ、多くの意見を聞いてほしい。

【君波豊会長】

食生活改善推進員や学校給食に携わる人の意見も聞いてみたらどうかと投げかけてはどうか。そういった方々の意見を取り入れていけば、給食にもすぐ反映させることができるだろうし、一般家庭でも適応できる。普及性が見込めると思うので、附帯意見として「食生活改善推進員、学校給食に携わる方の意見も取り入れて作成してください。」ということではいかがか。

【俵木晴之委員】

レシピごとに携わる人が違ってくると思う。大潟区の何人かの意見を聞いて実施すると言っているのだから、そこまで限定しなくていいと思う。

【佐藤忠治副会長】

大潟の郷土料理と言っているのだから、広く意見は聞いてもらいたい。

【俵木晴之委員】

広く聞くのはいいのだが、食生活改善推進員とか学校給食関係者とか限定しなくてもいいと思う。

【五十嵐郁代委員】

「大潟区内の色々な意見を聞き、参考にして編集をお願いします。」でいいと思う。

【君波豊会長】

では、文言は任せていただき、会長、副会長、事務局が相談して決めたいと思うがいかがか。

【山岸敏幸委員】

年度末までに間に合うかと言っている事業がますます遅れる可能性がある。「地域協議会に言われて遅れてしまった。」となると地域協議会にも責任がある。そこはあまり追求しないほうがよいと思う。そこは、文書にしなくとも提案団体は理解していると思う。

【君波豊会長】

食生活改善推進員は大潟区の食生活に関わっている方でもあるし、給食関係者は子どもたちの学校給食に直接携わっているのであげさせていただいたが、それでは、「広い意見を取り入れて作成してください。」の一言でいかがか。

【新保輝松委員】

レシピは、あまり意見を聞きすぎても書けなくなる。「これは、私のレシピです。」と書いてもらった方がいい。人に聞いても、材料、調味料、またその量も違う。周りに意見を聞くのは当たり前であるが、その料理を作る人のレシピで編集するしかないので付帯意見とする必要はない。

（「決を採ってください。」の声多数）

【君波豊会長】

では、付帯意見を付することに賛成の委員は挙手願う。

（6人挙手）

付帯意見は不要と考える委員は挙手願う。

（7人挙手）

賛成6人、反対7人であったので、付帯意見として記載しないこととする。

次に、524千円の残額がでるが、3次募集をどうするか。意見はあるか。

【五十嵐郁代委員】

追加募集はしないでいいと思う。

(「異議なし。」の声あり)

【君波豊会長】

他に意見はあるか。

(一同無し)

残額はあるが、追加募集はしないということでよいか。

(一同了承)

次にその他に移る。委員から連絡事項等はあるか。

(一同無し)

事務局から連絡事項はあるか。

【柳澤次長】

次回の予定だが、第5回地域協議会を9月16日(木)午後6時30分から開催する。

【佐藤忠治副会長】

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL : 025-534-2111 (内線 201、216)

E-mail : ogata-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。